

委託事業実施内容報告書

平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 NPO法人 可児市国際交流協会

1. 事業名称

可児市多文化人材育成事業

2. 事業の目的

居住年数が長くなってきている外国人が、地域で安定した職業に就き、余暇を楽しむなど地域で文化的な生活を送ることが、「生活者としての外国人」と捉え、学習者のみならず、指導者側も取組を通して、共生するための気付きや工夫など、人材育成という観点からお互いに学び合う。

3. 事業内容の概要

取組1: 多文化人材育成推進委員会

人材育成という観点から、関係各所で職場体験を実施し、学習者が地域で働くために必要な日本語、マナーを身に付けてもらう。

取組2: 生活と職場に必要な日本語

中上級者向け日本語教室。講座中盤、必ず受講者数が落ち込む等の昨年度の反省を口踏まえて、12回から5回に回数を減らし、毎回のテーマを学習者に明示した。

また、事前にアンケートを取り、ニーズに合わせた内容で実施。

取組3: 子育ての日本語

これまでの活動の中で、最も外国人の参加者が多く、さらに自然と日本語での発話が促される「お料理教室」。「お料理」をツールにして、子育て中の外国人と日本人が交流の中で、日本語を学ぶ。さらに子育てに関わる専門家(保健師、助産師、保育士等)にも「お料理教室」に参加していただき、それぞれの立場を越えてつながりをもつ。

取組4: 文化体験型日本語教室

既存の日本語教室と協働する。夏は、浴衣を着て盆踊りの練習、冬は、和服の着付けをした後に、年賀状を作成した。既存の日本語教室を巻き込むことによって、指導者やサポーターの地域の日本語教室としての取組意義の見直し、意識向上につなげていく。

取組5: 演劇ワークショップで伝える防災

演劇ユニット「MACHI」による演劇手法を用いながら、防災に関する日本語を学ぶ。今年度は地域連携の箇所を増やしていく。

取組6: 日本語見本市

従来のシンポジウムという堅苦しい形式はやめ、本事業の取組の成果報告をはじめ、協会の日本語教室、近隣の日本語教室が一堂に、ブース形式(ポスターセッション)で各取組の報告をする。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	H26年 7月4日(金) 12:30~ 15:00	2.5h	可児市多文化 共生センター フレビア	米勢 治子 松井かおり 磯谷琢也 池辺恭子 寺澤佳子 山田久子 鳥袋理子 各務真弓 近藤利恵	1: 運営委員紹介 2: 今年度の取組 3: 今後のスケジュール	<ul style="list-style-type: none"> 今年度取り組む内容を確認 外国人が、日本の文化だけを学べばいいという訳ではなく、日本人も相手の文化を取り入れるお互いの学び合いとして取り組んでいくこと。 昨年度からの改善策は何か、既存の教室をどう巻き込んで教室運営していくかを検討。
2	H26年 10月6日 (月) 12:30~ 15:00	2.5h	可児市多文化 共生センター フレビア	米勢 治子 磯谷琢也 山田久子 鳥袋理子 各務真弓 近藤利恵	1: 各取組実施状況 2: 日本語見本市について 3: 今後のスケジュール	<ul style="list-style-type: none"> 取組2の生活と職場に必要な日本語について、講座内容は、アンケート結果のニーズに応じてはいるが、テーマに統一性がなかったのではないかと「仕事」に絞って、取組1の職場体験学習の内容を織り込んだ方が受講率の伸び悩みがなかったのではないかと。 取組6日本語見本市について、出展者への呼びかけは県から紹介・発信をしてもらったかどうか。

3	H27年 1月19日 (月) 10:00~ 12:30	2.5h	可児市多文化 共生センター フレビア	木野 加子 磯谷 琢也 寺澤 佳子 山田 久子 島袋 理子 各務 眞弓 近藤 利恵	1:各取組実施状況 2:日本語見本市について 3:来年度の計画について	・今年度の取組の反省と改善・成果 ・取組6の日本語見本市について 出展応募状況、事例報告・活動発表の 方法、会場レイアウトについて検討
---	---	------	--------------------------	---	---	--



運営委員会の様子

5. 取組についての報告

○取組1:多文化人材育成推進委員会

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ①本事業の目的を関係各所に周知させ、連携・関係作りを強化する。
- ②職場体験学習をきっかけに自分には、何が不足しているのか、外国人も受け入れ側も考える。
- ③堅苦しい雰囲気ではなく、和やかに座談会を開催することで、本音を出し合い、地域における教室のあり様を見直す。

(2) 取組内容

- ①②人材育成の観点から、関係各所で職場体験学習を実施し、学習者が地域で活躍できるように必要な日本語、マナーを身に付けてもらう。
- ③実施出来ず。

(3) 対象者

青少年の外国人 及び 職場体験先

(4) 参加者の総数 13人 職場体験先:8ヶ所 出身・国籍別内訳

中国	1人
ブラジル	4人
フィリピン	8人

(5) 開催時間数(回数) 職場体験学習 46時間 (全 12回) 日本語教室 24時間 (全 10回)

(6) 取組の具体的内容

〔職場体験〕

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	H26年 8月27日 (水) 9:00~15:00	6h	美容院: ビーグレイス パティオ店	1人	フィリピン (1)	職場体験学 習	朝会に参加して、大きな声で挨拶をした。 掃除をした後、タオルをたたんだ。 お客様を迎え、シャワー後のひざかけを 置んだり、元の場所に戻したりした。 お客様に飲み物を出し、 カップを洗い、洗濯物を干したりした。	美容院 店長・スタッ フ	—
2	H26年 8月27日 (水) 9:00~15:00	6h	可児市役所 地域振興課	1人	フィリピン (1)	職場体験学 習	お客様が用紙に記入する時にどう書くかアシ ストした。 記入または相談が終わったら、お客様が行き たいフロアにお連れした。	市役所職員	—
3 4 5	H26年 9月3日 (水)・ 10日(水)・ 17日(水) 13:00~ 15:00	6h	広見公民館	2人	フィリピン (2)	職場体験学 習	就学支援「ゆめ教室・おひさま教室」の 体育の時間で、自分たちが得意とする ダンスを教えるという講師体験をした。 子どもたちを集合させたり、踊れるようになるに はどう指導したらいいのか、 最後、体育館の掃除を子どもたちが 上手に出来るには、どうしたらいいのかを考 え、実施した。	近藤 利恵	ゆめ教室 スタッフ
6	H26年 9月4日(木) 13:00~ 16:30	3.5h	可児市文化 創造センター アーラ	2人	フィリピン (1) ブラジル (1)	職場体験学 習	館内見学、事業説明、パンフレット準備	アーラ 担当 者	—
7	H26年 9月5日(金) 13:00~ 17:00	4h	美容院: ビーグレイス パティオ店	1人	ブラジル (1)	職場体験学 習	お客様の爪磨きをしたり、タオルをたたんだり、 ヘアカラーをする時に使うアルミホイルを作っ た。	美容院 店長・スタッ フ	—

8	H26年 9月5日(金) 13:00~ 17:00	4h	可児市多文化 共生センター フレビア	1人	ブラジル (1)	職場体験学 習	多文化共生フェスティバルのチラシ作成	フレビアス タッフ	—
9	H26年 9月8日(月) 10:00~ 12:00	2h	可児市多文化 共生センター フレビア	1人	フィリピン (1)	職場体験学 習	就学支援「ゆめ教室」の英語の時間で、子ども たちに中学英語:動詞の活用形を教えた。	ゆめ教室 指 導者	—
10 11	H26年 9月18日 (木) 9:00~ 14:30・ 25日(木) 9:00~15:00	11.5 h	ミニストップ	3人	フィリピン (2) 中国(1)	職場体験学 習	店の周りの掃除、陳列棚に商品を並べたり、レ ジ打ち、商品を袋に入れたりした。	ミニストップ 店長・店員	—
12	H26年 9月29日 (月) 13:00~ 16:00	3h	洋菓子店 ガトースリール	1人	ブラジル (1)	職場体験学 習	クッキーのパッケージにシールを貼ったり、四 角いケーキの周りにセロファンをまいたり、苺 ショートケーキの中に入れる苺を切ったり、 ケーキに使うカボチャの重さを測ったりした。	ガトースリール 店長・店員	—

〔日本語教室〕

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	H26年 8月25日 (月) 10:00~ 12:00	3h	可児市多文化 共生センター フレビア	2人	フィリピン (2)	職場体験学 習 ガイダンス	・職場体験学習で何を勉強するのか ・身だしなみについて ・社会マナーについて ・履歴書・自己PRシートの記入	近藤 利恵	—
2	H26年 8月25日 (月) 14:00~ 16:00	2h	可児市多文化 共生センター フレビア	3人	フィリピン (3)	職場体験学 習 ガイダンス	・職場体験学習で何を勉強するのか ・身だしなみについて ・社会マナーについて 講師体験をする際の授業内容を考える	近藤 利恵	—
3	H26年 8月29日 (金) 14:00~ 17:30	3.5h	可児市多文化 共生センター フレビア	5人	フィリピン (2) ブラジル (3)	職場体験学 習 振り返り& ガイダンス	・振り返りシートの記入 ・職場体験学習で何を勉強するのか ・身だしなみについて ・社会マナーについて ・履歴書・自己PRシートの記入	近藤 利恵	—
4	H26年 9月1日(金) 13:00~ 15:30	2.5h	可児市多文化 共生センター フレビア	5人	フィリピン (3) ブラジル (1) 中国(1)	職場体験学 習 ガイダンス	・職場体験学習で何を勉強するのか ・身だしなみについて ・社会マナーについて ・自己PRシートの記入	近藤 利恵	—
5	H26年 9月22日 (月) 11:00~ 12:00	1h	可児市多文化 共生センター フレビア	1人	フィリピン (1)	職場体験学 習 中間振り返り	・第1回目の学習を終えて、学んだことは何か 第2回目につなげるための日本語を学ぶ	近藤 利恵	—
6	H26年 9月29日 (月) 10:00~ 11:00	2h	可児市多文化 共生センター フレビア	3人	フィリピン (3)	職場体験学 習 振り返り	・振り返りシートの記入	近藤 利恵	—
7	H26年 10月2日 (木) 14:00~ 15:00	3h	可児市多文化 共生センター フレビア	3人	フィリピン (2) 中国(1)	職場体験学 習 振り返り	・振り返りシートの記入	近藤 利恵	—
8	H26年 10月7日 (火) 10:00~ 11:00	1h	可児市多文化 共生センター フレビア	2人	フィリピン (2)	職場体験学 習 振り返り	・職場体験学習で学んだことは何か 次にどうつなげていくか	近藤 利恵	—
9	H26年 10月18日 (土) 9:00~12:00	3h	可児市多文化 共生センター フレビア	3人	ブラジル (3)	職場体験学 習 振り返り	・振り返りシートの記入	近藤 利恵	—
10	H26年 10月27日 (月) 13:00~ 16:00	3h	可児市多文化 共生センター フレビア	1人	ブラジル (1)	職場体験学 習 振り返り	・振り返りシートの記入	近藤 利恵	—

(7) 参加者の募集方法

職場体験学習に関心のある青少年に口頭にて呼びかける。

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

〔職場体験先〕

- <1>美容院:ビーグレイス パティオ店
- <2>可児市役所 地域振興課
- <3>就学前指導「おひさま教室」・就学支援「ゆめ教室」体育
- <4>就学支援「ゆめ教室」英語
- <5>ミニストップ
- <6>可児市創造センター アーラ
- <7>洋菓子店:ガトースリール
- <8>可児市多文化共生センター フレビア

① 職場体験学習を行うにあたって、ガイダンスを実施

・職場体験学習で何を勉強するのか

・身だしなみについて

・社会マナーについて

● 履歴書・自己PRシートの作成

・氏名・住所・学歴・職歴等 パーソナルデータページの書き方

・一番印象に残っている思い出

・読書 (1)好きな本 (2)最近読んだ本 (3)勉強している本

・今までに挑戦したことでの成功

・今までに挑戦したことでの失敗

・熱中していること

・長所 短所

・自己紹介

・職場体験学習をしようと思ったきっかけ

・将来のキャリアプラン

・2つの文化をもつ自分に出来ることは

② 職場体験学習

・体験しながら得られる日本語を学ぶ。自分に足りないものは何か気付いた時に学習意欲につながられる。

・体験先に通訳はいない。やさしい日本語で、外国人への伝え方を学んでいただく。

③ 職場体験学習の振り返り

● 振り返りシートの作成

・何をしましたか

・体験して分かったことは何ですか

・良かったこと

・悪かったこと

・職場体験をして、意識が変わったことは何ですか

・職場体験先の方々に、何か伝えたいことがあれば、書いてください



美容院



市役所



ゆめ教室 体育



ゆめ教室 英語



アール



ミニストップ



洋菓子店



日本語教室の様子

(9) 取組の目標の達成状況・成果

当初の予定は、行政・自治会・商工会議所・外国籍の生徒が多く在籍する高等学校等と本事業の運営委員で構成された推進委員会を設置し、運営委員が、推進委員会の関係各所にヒアリングをしたり、各教室で取り組んだ成果を推進委員会で集約し、意見交換をすることで、今後の取組内容に反映させることだった。

しかし、行政や外国籍の生徒が多く在籍する高等学校については、岐阜県での取り組みが先行しており、調整がなかなか難しいなか、ヒアリング、意見交換、教室にフィードバック、全てを行うには、かなりの時間を要するため、まずは、私どもが、外国人に何がしたいのかを明確にするためにも「職場体験学習」に焦点を絞り、地域の方々に体験先の受け入れを得ることによって、関係作りを行った。私どもの団体が、外国人を支援しているということを初めて知るお店や、また、今後も協力して地域を盛り上げていきたいと言って下さる職場もあり、とてもありがたく感じた。現在、地域に住む外国人青少年は、親が日本語を使わなくても済む工場で働いていたたり、特に日本語が話せなくても生活に困っていないため、子どもたちが自ら日本語教室に通う意欲はないに等しい。将来の夢や希望はあるものの、日本では無理だと諦めている子どももいる。そのため、社会人としての責任や、より快適に暮らす方法を考えるチャンスがなかった。職場体験学習では、社会に出るための準備として、仕事はどんなに大事なのか。仕事で使う日本語、履歴書の書き方、自己をPRするために何を書けばいいのかを勉強した。

座談会実施については、推進委員会同様、時間を作ることが出来なかった。しかし、外国人からも教室の指導者からも課題やニーズを本音で出し合える場が必要だと感じていたため、

これに代わる「日本語見本市(取組6)」に思いを込めた。

向後、座談会を開くためにも、「日本語見本市」で、外国人・日本人両者、様々な教室を見て、話題のヒントが生まれるきっかけになれば、さらに座談会も日本語見本市も実施する意味が生きてくるのではないかとと思われる。

〔学習者の感想〕

- ミニストップで体験しました。ミニストップで商品を売りました。レジをしたり、商品を並べたりしました。緊張して言葉を忘れました。お店の人とは、話せましたが、お客様と話すことができませんでした。でも、職場体験は、日本語の勉強をちゃんと頑張らなくてはいけないという気付きをもらえるいい経験で、とてもいいです。将来、社会に出る時、人と交流しなければならぬ。でも、日本語が分からないと交流出来ないから、職場体験でいろいろと日本語を学び、将来のために、いいきっかけとなりました。
- 洋菓子店で体験しました。僕は仕事をなめていました。ケーキ屋は簡単な仕事だと思っていました。でも、そうではありませんでした。嬉しかったことは、店長から器用だと言われたことです。職場体験をした後、もっと勉強したいというか、この仕事のこともっと知りたい、もっとやりたいという気持ちになりました。
- フレビアでフェスティバルのチラシ作成の体験をしました。作ったチラシが良くなかった。それは、相手に良さが伝わらないチラシになってしまったから。失敗をしたから、今度は、どうしように考えて作ってほしいのかを学びました。将来、このような仕事出来るように、この経験を活かしていきたい。
- これから日本の中学校へ行くために日本語を勉強している「ゆめ教室」で英語の授業を体験しました。中学1年生の教科書を使って、動詞の活用を教えました。日本語で説明するのは、とても難しかったです。時間も余ってしまいました。教えるために大事な言葉が何かが分かりました。将来は、日本語で困っている人を助けられるように日本語の勉強を頑張りたいと思いました。
- 美容院で体験しました。接客業を経験するいい機会でした。仕事は簡単なものではないです。立っただけでも疲れます。疲れていてもその疲れた顔を見せないことが大事です。昼食をとる時間がないほど忙しいのに、毎日きちんと働いています。それが社会人としての責任なんだということが分かりました。職場体験で敬語を実際に使いました。私は、将来、フライトアテンダントになりたいです。その職業は接客業なので、経験させてもらえたことは、とても良かったです。お客様に対しての日本語と態度を学びました。
- 市役所で体験しました。オフィスで働くということは、一日中ずっと椅子に座ったままで仕事をしているのかと思いましたが、お客様が次々といらっしゃったから、座る時間もないということを知りました。本当に大変な仕事だと分かりました。そして、どんなに大変な仕事があっても諦めないことが大事だと分かりました。職場体験は自分の将来を考えるいいきっかけです。実際、私はオフィスで働く他の職業は何かと考えました。市役所と同じようにオフィスで働くことは、いろんな日本語を勉強しなければなりません。いろんな大人から話を聞いて、将来の夢を見つけていきたいです。

(10) 改善点について

社会人になるための準備とは言っても、まだ若いため、受講した自覚や取り組む主旨が理解出来ず、絶対外してはならない授業を欠席したり、体験先に遅刻したり、甘さが見られた。日本の学校を経験している子どもは、そのようなことがなく、日本の学校を経験したことがない子どもに限って、時間を守ることや指導者が意図していることを汲む力が乏しいことが分かった。職場体験させる前の日本語教室にかける時間をもう少し増やし、受講生ともしっかり信頼関係を築いてから臨んでいけるといい。

○取組2: 生活と職場に必要な日本語

(1) 体制整備に向けた取組の目標

日本人と職場でスムーズなコミュニケーションが出来るように日本語力を高める。高い参加率を維持する。

(2) 取組内容

開講前に日本語学習者30人にアンケートを取り、ニーズの高いものから授業内容に織り込む。

- ①病院で使う日本語 ②コンビニで使う日本語* ③レストランで使う日本語
④仕事で使う日本語 ⑤レシピを読む(お好み焼きを作る)

*台風で参加者が少なかったため、2回実施

(3) 対象者

日本語を勉強したい中上級レベルの外国人

(4) 参加者の総数 40人

出身・国籍別内訳

中国	2人	インドネシア	人
韓国	人	タイ	人
ブラジル	17人	ペルー	2人
ベトナム	1人	フィリピン	18人
ネパール	人	日本	人

(5) 開催時間数(回数) 日本語教室 15時間 (全 6回)

講師検討会 9.5時間 (全 4回)

(6) 取組の具体的内容

[日本語教室]

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	H26年 7月27日 (日) 9:30~12:00	2.5h	可児市多文化 共生センター フレビア	12人	ブラジル (3) フィリピン (7) ペルー(1) ベトナム(1)	病院	<1>症状を伝える <2>受付・・・①診察申込書 ②受付に提出 <3>診察室 ロールプレイ <4>会計 <5>薬局 で使う言葉	長谷川 すま 子	-
2	H26年 8月10日 (日) 9:30~12:00	2.5h	可児市多文化 共生センター フレビア	3人	フィリピン (1) ペルー(1) 中国(1)	コンビニ-1	ミニストップのオーナーを特別講師にお迎えし コンビニで使われる言葉を学ぶ <1>客として:自分が言いたいこと、伝えたいこ とをどうやっていうか、店員が何を言っている のか、どういう意味なのかを知る。 <2>店員として:どんな日本語が必要か、どん な話し方しなければならないのか、会話のコツな どを知る。	土本 典子 島袋 理子	-
3	H26年 8月24日 (日) 9:30~12:00	2.5h	可児市多文化 共生センター フレビア	4人	ブラジル (3) 中国(1)	レストラン	<1>店員としての身だしなみ <2>店員の言葉 <3>お客の言葉 <4>レジ・会計の言葉	塚本 かおり 近藤 利恵	-
4	H26年 8月31日 (日) 9:30~12:00	2.5h	可児市多文化 共生センター フレビア	4人	フィリピン (4)	コンビニ-2	(第1回目のコンビニの授業が、台風で 受講者が少なかったため、再度実施:内容同 様)	土本 典子 島袋 理子	-
5	H26年 9月7日(日) 9:30~12:00	2.5h	可児市多文化 共生センター フレビア	9人	ブラジル (5) フィリピン (4)	仕事	<1>仕事の日本語と例えば <2>敬語:尊敬語・謙譲語・丁寧語の説明 使い方(ペアで練習) <3>電話応対:電話でよく使う言い方 ロールプレイ、伝言の仕方(伝言メモ)	田中 安希子	-
6	H26年 9月14日 (日) 9:30~12:00	2.5h	可児市多文化 共生センター フレビア	8人	ブラジル (6) フィリピン (2)	レシピ	<1>日本料理を作った経験や料理の作り方を 説明した経験話を話す <2>調理道具の名称を知る <3>野菜の切り方の名称を知る <4>調理方法の言い方を知る <5>「お好み焼き」のレシピに出てくる 表現を知る <6>「お好み焼き」を作る <7>食べながら、自分の国の料理の作り方を 日本語で説明する	小野木 政子	田中 安希子 長谷川 すま子

〔日本語講師検討会〕

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	H26年 7月1日(火) 13:15~ 16:00	2.75 h	可児市多文化 共生センター フレビア	5人	日本(5)	日本語教室 開講 について	・アンケート結果に基づき、どんなテーマで 講座を組んでいくか、この教室は、何を 目指していくか検討する	大澤 まゆみ 小野木 政子 田中 安希子 長谷川 すま 子 近藤 利恵	-
2	H26年 9月9日(火) 13:00~ 15:00	2h	可児市多文化 共生センター フレビア	5人	日本(5)	日本語教室を 終えて	・今年度取り組んでどうだったか。 今後、本事業で取り組んでいくには、 どのように改善していったらいいか、 検証する	小野木 政子 島袋 理子 田中 安希子 長谷川 すま 子 近藤 利恵	-
3	H27年 1月6日(火) 9:30~12:15	2.75h	可児市多文化 共生センター フレビア	4人	日本(4)	日本語見本 市 について I	・日本語見本市の流れ ・本事業の取組の振り返り。成果と課題を 洗い出し、まとめる ・何を発表していくか、検討	小野木 政子 田中 安希子 長谷川 すま 子 近藤 利恵	-
4	H27年 1月27日 (火) 13:30~ 15:30	2h	可児市多文化 共生センター フレビア	4人	日本(4)	日本語見本 市 について II	・発表していく内容を検討、まとめる	小野木 政子 田中 安希子 長谷川 すま 子 近藤 利恵	-

(7) 参加者の募集方法
チラシ



日本語



ポルトガル語



英語

多言語情報誌、協会メルマガ、ホームページ、FaceBook

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

・主にロールプレイを用いて進めた。コンビニとレストランの回は、
特別講師をお招きし、店側の日本語とお客側の日本語の両面から学ぶようにした。



①病院



②④コンビニ 1・2



③レストラン



⑤仕事



⑥レシंप(お好み焼き)

(9) 取組の目標の達成状況・成果

開講前に日本語学習者にアンケートを取った。

(抜粋)

◇日本語が使えなくて、身近で困ったことは何ですか。

- ・近所の人に話しかけられても、答えることが出来ない。答えたとしても合っているか不安。
- ・日本人に説明が出来ないこと。
- ・レストランやコンビニで困った。店員に尋ねられた時に、どうやって答えたらいいかわからない。
- ・自分の気持ちが言えない。
- ・言いたいことが伝えられない。自分が正しいことが言えているのか分からない。
- ・レストランで、メニューが読めないから指さしをするだけ。メニューに書いてある漢字が読めなくて困る。
- ・日本語の文法について、分からないことが多い。
- ・医者言うことが理解できない
- ・銀行で通帳から引かれた不明なお金について、銀行員に聞いても説明が理解出来ない。
- ・仕事で自分の意見が言えない。コミュニケーションがとれない。いろんな指示ややる事が理解出来ないから、何をすればいいのかわからない。

◇こんな日本語が使えたら、自分に役に立つと思うことは何ですか。

- ・仕事と学校で使える言葉
- ・謝る気持ちとゆっくり話して下さいという言葉が分かったら、相手に気持ちが伝えやすくなるのに・・・。
- ・相手を尊重できるような日本語
- ・マナーについて。

◇どんな日本語教室があったら、受講してみたいと思いますか。

- ・漢字が読めるようになりたい。漢字が分かると難しい言葉も理解出来るから。
- ・日本の文化、漢字、日本語で文章を作ること、マナー。
- ・場面練習が出来る教室。
- ・日本語での会話。
- ・仕事、病院、レストランで使う日本語を学びたい。自分の意見が説明出来る教室。
- ・能力試験1級。
- ・レシピが読めるようになる教室。
- ・友だち同士のコミュニケーション、先生の指示が分かるようになる教室。

◆受講者の感想(抜粋)

- ・たくさんの語彙を学びました。
- ・敬語の使い方が勉強出来て良かったです。
- ・今後の仕事に役立つと思います。
- ・料理の言葉を覚えられて良かった。お好み焼き、おいしかったです。
- ・絵や道具を実際見せながら、説明してくれたので、非常に分かりやすかったし、楽しかったです。

日本語教室では、中盤、受講者数が落ち込む。前年度は12回で回数が多すぎたからではないかという反省から、今年度は5回と大幅に減らした。開講前にとったアンケート結果に基づき、ニーズの高いものを授業内容に織り込んだ。一方的な授業ではなく、ロールプレイを重点的に用い、教材は、本物を使った。①病院:本物の薬・薬袋 ②④コンビニ:本物の商品を並べて、レジを作って、お店の様子を再現。③レストラン:本物のメニューを使って練習。また、コンビニとレストランについては、特別講師として、オーナーや従業員をお呼びし、指導していただいた。日本語だけでなく、接客態度、対応も学ぶことが出来た。店側の日本語を学ぶことにより、コンビニやレストランだけでなく、様々なシーンで使える日本語、マナーであることを分かってもらうことが狙い。

⑤仕事は、敬語・電話対応・伝言メモの取り方を学習した。受講の働きかけをしなくても、受講者が多く、やはり人気が高いテーマだった。

⑥レシピを読もうでは、料理用語の学習とお好み焼きを作ることは、コミュニケーションのきっかけであり、そこから自分の国の料理の作り方を日本語で説明することが目的・目標であったが、今習った日本語を使いながら、楽しく、説明をすることが出来た。

受講者の伸び悩みはあったが、少ない中でも受講した方は、関心を持ってくれて熱心に質問をする場面も多く見られた。

取組2:生活と職場で必要な日本語教室で学んだ日本語を 取組1:職場体験学習に活かすことが出来て、本事業の中で、取組の相乗効果が得られて良かった。

(10) 改善点について

開講前にアンケートを取り、ニーズの高いものを授業内容に織り込んだことから、私たちは学習者のニーズに応えているため、受講者は多く、また全回参加するだろうと読み、受講料は、申込時に全5回トータルで払っていただくという設定をし、告知した。昨年度の反省から、チラシに毎回のテーマを載せることにしたが、テーマを載せたことによって、学習者は全5回受講するのではなく、勉強したい回だけ選んで受講するようになってしまった。そのためにトータルでは、受講料が高い。という意見が出てしまい、開講まで一週間切ったところで、応募者ゼロ。思い切って、受講料は、一回ずつにし、払いやすいワンコインという形に切り替えた。また、受講者集めを積極的に行った。知人や協会に関わりのある外国人に働きかけをし、27人の応募になった。しかし、応募は多数だったが、実際、受講者は少数。敬語やマナーは、テーマに関係なく、毎回共通して、勉強になることまでは、届かなかつたし、働きかけをしないと受講者が集まらない。誰のために、やっているのか、考えさせられる取組だった。本取組は、日曜日の午前中に実施した。受講者数が少ないのは、時間が良くないのではないかという意見も出た。来年度は、一度時間を変えて、臨んでみたい。

○取組3:子育ての日本語:お料理 DE ともだち

(1) 体制整備に向けた取組の目標

親子で料理を楽しみ、地域の良さや特色を理解し、子育てに関わる方々や地域住民と臆さず日本語で交流できるようになる。さらに、地域の子育てに関わる専門家にも様々な国籍の住民を身近に感じて頂くことで、多文化への理解を促進する。

(2) 取組内容

これまでの多文化共生活動の中で最も地域外国人の参加者が多く、さらに自然と日本語の発話が促進されていた「お料理」をツールにして、子育て中の地域外国人、地域日本人、子育てに関わる専門家(保健師、助産師、保育士など)が、それぞれの立場を越えてつながることを目的に行う。この取組を機会に地域の子育て専門家、地域住民には、多文化を知ってもらい、地域外国人には、子育ての悩みや相談できることを知ってもらい、この地域での子育てをより良いものになるようにする。

- ①和菓子教室&子育て専門家との交流
- ②ブラジル人ママさんのおやつ教室&子育て専門家との交流
- ③和食&子育て専門家との交流
(みりんを使用し、次回の見学へつなげる)
- ④みりん酒造見学

(3) 対象者 育児に関わっている外国人及び地域日本人

(4) 参加者の総数 70 人

出身・国籍別内訳

中国	3人	インドネシア	人
韓国	人	タイ	人
ブラジル	50人	ペルー	人
ベトナム	1人	フィリピン	28人
ネパール	人	日本	6人

(5) 開催時間数(回数) 14 時間 (全 4 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 6月28日 9:30~13:30	4h	可児市 福祉センター	18	ブラジル (16) フィリピン (2)	和菓子を作る	家庭でできる人気の和菓子作りを学びながら、地域の子育て支援者と交流する。	木原 美紀	山崎 パウラ リベイロ ミドリ 井崎 早苗 宮崎 スエリ 伊藤 恵 寺澤 佳子 大滝 ジゼリ
2	平成26年 7月26日 9:30~13:30	4h	可児市 福祉センター	17	ブラジル (14) フィリピン (2) ベトナム(1)	ブラジルスタイル 人參カップ ケーキを作る	ブラジル人ママさんから野菜を使ったカップケーキ作りを学びながら、地域の子育て支援者と交流する。	山崎 パウラ	木原 美紀 高田 絢子 宮崎 スエリ リベイロ ミドリ 井崎 早苗 寺澤 佳子 大滝 ジゼリ
3	平成26年 11月8日 9:00~13:00	4h	可児市 福祉センター	17	ブラジル (12) フィリピン (3) 中国(2)	鮭のみりん 焼きを作る	和食のルールや調味料を理解し、しゃげのみりん焼き、きんぴらごぼうの作り方を学びながら、地域の子育て支援者と交流する。	木原 美紀	山崎 パウラ 宮崎 スエリ アダムソン 充代 井崎 早苗 寺澤 佳子 山口 祐子 大滝 ジゼリ
4	平成26年 11月15日 10:00~ 12:00	2h	川辺町 白扇酒造 株式会社	18	ブラジル (8) フィリピン (3) 中国(1) 日本(6)	みりんの製造 過程を学ぼう	日本古来の調味料みりんを伝統的な製法を守る工場でその製法を学ぶ。	池辺 恭子	寺澤 佳子

(7) 参加者の募集方法
チラシ



日本語



ポルトガル語



英語



日本語



ポルトガル語



英語



日本語



ポルトガル語



英語



日本語



ポルトガル語



英語

多言語情報誌、協会メルマガ、ホームページ、FaceBook

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

① 和菓子教室

実施日時 2014年6月28日 9:30～13:30

参加者 26名 内訳 ブラジル(16)、フィリピン(2)、子育て支援者(8)

子育て支援者 可児市役所 健康増進課 課長 井藤裕司様
可児市役所 こども課 主任 三輪明日香様
トキワ幼稚園 栄養士 渡邊めぐみ様
可児市立土田保育園 園長 松原真弓様
可児市立土田保育園 通訳 ニシオ リナ様
可児市発達支援センターくれよん 相談支援専門員 田口ゆみこ様
岐阜県助産師会 助産師 森仁美様
※岐阜医療科学大学 学生 矢作由里子様 (森先生のゼミ生)

担当者 料理講師1名、司会進行1名、サポーター7名、通訳2名

活動目標
・日本語での調理
・地域の子育て支援者との交流

調理内容
・フルーツ大福
・どら焼き

学習内容
①材料ゲーム(白玉粉、ホットケーキミックス原材料)
②調理

活動後の参加者の感想

- ・今日の教室は最高でした。作り方は簡単でおいしかったです。
- ・とても良かったです。とても参考になりました。2名
- ・とても良かったです。お友達作りもできました。
- ・とても楽しかったです
- ・とても良かったです。おいしいものを覚えて、それ以外に一緒にたべながら情報交換できることがおもしろかった。ありがとう。
- ・一番好きなデザート覚えることができすごく良かったです
- ・いろいろな人と出会う事ができたこと、といつもと違う料理を覚えられて良かったです。
- ・スタッフさんはすごく親切でした。とても楽しかった
- ・ウェルカムな雰囲気楽しかった

活動後の子育て支援者の感想

- ・楽しかったです。意志の疎通は適当でしたが、行動でやっていけばいいかなと思いました。(幼稚園)
- ・ポルトガル語が飛び交う中、通訳さんが通訳してくれたことで話がわかったが、子どもたち(外国籍の)は逆の立場でいることがよくわかりました。(保育園)
- ・助け合って作業することが本当にスムーズにできて、みなさんの社会性の高さを感じました。楽しかったです。(くれよん)
- ・料理をしながら普通の(日常の)コミュニケーションをたくさんすることができました。(助産師)
- ・みんな同じ。言葉がわからないのが残念。(健康増進課)
- ・明るい方が多く楽しかったです。(大学生)
- ・共同作業をすることで打ち解けられるのを実感しました。(こども課)

学習風景



② ブラジルスタイル 人参カップケーキ

実施日時 2014年7月26日 9:30~12:30 12:30~(交流会)

参加者 24名 内訳ブラジル(14)、フィリピン(2)、ベトナム(1)、子育て支援者(7)

子育て支援者 可児市役所 健康増進課 只腰知子様
可児市役所 こども課 改田有里様
トキワ幼稚園 教諭 山中夢子様
可児市立土田保育園 主任保育士 宮原様
可児市立土田保育園 調理師 田口千代美様
岐阜県助産師会 助産師 森仁美様
※岐阜医療科学大学 学生 矢作由里子様 (森先生のゼミ生)

担当者 料理講師1名、日本語講師1名、サポーター7名、通訳2名

活動目標
・日本語で調理方法を理解し、グループ内で協力して作業を進める
・地域の子育て支援者との交流

調理内容
・人参カップケーキ

学習内容
①調理道具ゲーム(ボール、ゴムべら、あわだて器、ミキサー等)
②調理に関する日本語
まぜる、つやがでる、輪切りにする、(ふるいに)かける、(ミキサーに)かける
③子育て専門家への質問コーナー(通訳)(別紙参照)
④試食、交流会

活動後の参加者の感想

- ・すごくよかった。思ったよりよかった。初めて参加したけど、次のも参加したい。
- ・おもしろい教室だった。友だちを作ることができたし、友人とも再会できた。
- ・すごく良かった。素晴らしい日でした。ありがとうございました。
- ・たのしかった
- ・ゲストやサポーターがいてくれてたすかった
- ・最高でした。
- ・参加できてすごくうれしかった。
- ・すばらしかった。
- ・とてもよかった。説明もとてもわかりやすかった。教室にいた方々もよい方ばかりで次回も参加したい。
- ・とても楽しかったです。
- ・ゲストへの質問のコーナーがよかった。

活動後の子育て支援者の感想

- ・言葉が通じなくても料理を通して、こことは通じ会えるのだと思います(健康増進課)
- ・みなさんともフレンドリーで楽しめました。日本語を学ぼうとする気持ちも感じました(こども課)
- ・日本での生活の様子、困ったこと、驚いたことなど、色々聞くことができました。10代の子ともたくさん話げことができました。将来、妊娠、出産、子育てする時、お手伝いできることがあれば嬉しいです。(助産師)
- ・外国の方への健診受診啓発ができたり、気になっていることなど話すことができました。(健康増進課)
- ・外国人の方だからと、自らあまりコミュニケーションをとっていなかったのが、自ら関われば楽しくコミュニケーションがとれ、子どものことなども話せると思いました。(幼稚園)
- ・普段外国人の接するときは、事務手続き上の話しかしないので、このような機会があつて、単純に楽しめました。(こども課)

学習風景



③ 魚料理

実施日時 2014年11月8日 9:00～12:30 12:30～(交流会)

参加者 22名 内訳ブラジル(12)、フィリピン(3)、中国(2)、子育て支援者(5)

子育て支援者 可児市役所 健康増進課 木村裕子様
可児市役所 こども課 福田真弓様
トキワ幼稚園 教諭 渡辺ひかる様
可児市立久々利保育園 園長 前田なお子様
発達支援センター 支援員 安藤みえ子様

担当者 料理講師1名、日本語講師1名、サポーター7名、通訳2名

活動目標
・日本語で調理方法を理解し、グループ内で協力して作業を進める
・地域の子育て支援者との交流

調理内容
・鮭のみりん焼き ・きんぴらごぼう

学習内容
①魚の名前あてゲーム
さんま、さば、冷凍さば、いわし、あじ、ちだい、たら(塩)、生秋鮭、
さわら、吟鮭(甘口)、さばの本みりん干し、銀鮭 西京漬
②魚を購入する際にヒントになる日本語
(スーパーで魚のパックに掲示されている言葉)
旬、甘口、中辛、辛口(鮭)、調理します、三枚に下ろす、生食用、
加熱用、塩焼き、煮つけ
③鮭のみりん焼き、きんぴらごぼうの調理で使う日本語、調理法を学ぶ
塩をふる、水分を取る、ささがき、照りを出す、しんなりする、
④和食の盛り付け
⑤子育て専門家への質問コーナー (通訳)
⑥試食、交流会

活動後の参加者の感想

- ・とても簡単なレシピで良かった
- ・とてもおいしかった
- ・もっと 他の料理を学びたい
- ・初めて参加しましたが、とても楽しかった
- ・楽しかった。いい教室です。

活動後の子育て支援者の感想

- ・普段は逆の立場(多くの日本人の中で数人の外国の方)を経験し、言葉が通じないことへの不安を感じました。(周りが何を話しているかわからないと不安ですね)(幼稚園)
- ・みなさん日本語のが上手でびっくりしました。外交の生活習慣がわかって良かったです(健康増進課)
- ・みなさんとても優しく、こどもや兄弟、家屋を大切にしているなあと思いました。また、日本の食事を日常もよく食べて見えるようで、日本に来て、日本になじんでくださっていると思いました。(くれよん)
- ・よく気が付いて積極的に活動できていました。中国の方は手際よく片付けをされたり、キッチンの周りもとてもきれいに見えました。二人とも学生さんでしたが、積極的に参加していました。はしの持ち方、ご飯の食べ方もきれいです。(保育園)
- ・一緒に料理をすることでみんなでも協力しあうことができ、通訳の方が見えたおかげで楽しく過ごすことができました。こういう機会は少ないので勉強になりました。(こども課)

学習風景



(9) 取組の目標の達成状況・成果

文化庁事業に参加した初年度(2012年度)、この地域で子育てする地域外国人の方の悩みを解決すべく、子育て支援専門家の方々を講師としてお招きし、セミナーを開催した。しかし、残念ながら少人数の参加にとどまった。

2年目、前年度(2012年度)の課題であった集客に力を入れ、お料理教室を開催。そして3年目の今回、「お料理教室」をコミュニケーションツールとして用い、初年度に講師として参加して下さった方々やさらに私立幼稚園、市役所の方々をゲストとしてお招きし、地域外国人の方々と出会う機会を作り、気軽に話すチャンスを作ることができた。参加者、および支援者アンケートの結果、活動に満足、ほぼ満足との回答が90パーセント以上を占め、多くの方々に満足いただける内容であったと思われる。さらに、子育て支援者の方々からは、仕事ではなく、一個人として同じ目線で向き会える機会はとて少なく貴重な経験だったとのご感想を頂き、予想以上の成果を上げられた。今回の経験をもとにこれからも地域外国人、地域住民がお互いに寄り添い、助け合いながら、国籍に関係なく子育てを楽しめる地域を目指し、これからも活動を続けていきたい。

(10) 改善点について

好評な分、同じ参加者が繰り返し参加して下さったが、できるだけ多くの方々への参加を呼びかけられるように、集客方法に工夫が必要だと感じた。また、今回ご協力いただいた支援者の方々、地域企業とこれからのどのような形でつながっていくかが課題となる。

○取組4:文化体験型日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・既存の日本語教室との連携
- ・他団体との連携

(2) 取組内容

- ・地域の盆踊りに参加しよう 3回
- ・可児夏祭りに参加しよう 1回
- ・和服体験とポストカード作り 1回
- ・世界のお茶会(日本語見本市に参加) 1回

(3) 対象者 日本語学習者 日本語支援者

(4) 参加者の総数 47人

出身・国籍別内訳

中国	2人	インドネシア	人
韓国	人	タイ	人
ブラジル	14人	ペルー	人
ベトナム	4人	フィリピン	27人
ネパール	人	日本	人

(5) 開催時間数(回数) 14 時間 (全5回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 7月12日 19:00~ 20:30	1.5h	可児市多文化 共生センター フレビア	7人	フィリピン (2) ブラジル (5)	盆踊り練習	盆踊りと由来の説明 「炭釜節」の振付で「掘って、掘って」 「担いで、担いで」「押して、押して」 「仰いで、仰いで」と言葉を教えた。	齋 和子	
2	平成26年 7月19日 19:00~ 20:30	1.5h	可児市多文化 共生センター フレビア	4人	ブラジル (4)	盆踊り練習	盆踊りと由来の説明 「炭釜節」の振付で「掘って、掘って」 「担いで、担いで」「押して、押して」 「仰いで、仰いで」と言葉を教えた。	齋 和子	

3	平成26年 7月26日 18:00～ 21:00	3h	大森台自治会	10人	フィリピン (10)	盆踊りに参加	大森台自治会の加入の2家族を中心に参加。 今年は、フィリピン舞踊の交流はなくなったが、 地域に密着し行事に無理なく参加できるよう になった。	齋 和子	
4	平成26年 7月26日 18:00～ 21:00	3h	可児市多文化 共生センター フレビア	13人	フィリピン (6) ブラジル (3) 中国(2) ベトナム(2)	盆踊り練習	盆踊りと由来の説明 「炭鋤節」の振付で「掘って、掘って」 「担いで、担いで」「押して、押して」 「仰いで、仰いで」と言葉を教えた。 可児夏祭りに一緒に行きましよう と誘ったが、台風接近により中止と なってしまった。	齋 和子 中島 薫 各務 真弓	中島 薫 玉置 啓二 木村 蕃 石川 英明 神谷 明子 金子 香男里
5	平成26年 11月30日 12:30～ 16:30	4h	可児市多文化 共生センター フレビア	13人	フィリピン (9) ブラジル (2) ベトナム(2)	和服体験 ポストカード 作り	なかなか着る機会のない、訪問着や 晴れ着の着付け体験とその写真を ポストカードにして、クリスマスや お正月の年賀状とした。 年配の方でもシックな着物より色が 鮮やかな着物が喜ばれた。	生田 和子	杉坂 栄 ダニー キミコ 馬木 照子 渡辺 美也子 吉田 よしえ 各務 真弓 DANIELL EUREKA ALICNAS 朝岡 貴美子 水野 里美
6	平成27年 2月8日 10:00～ 15:00	4h	可児市多文化 共生センター フレビア	-	-	お茶の世界 紹介	・日本茶の種類と入れ方の講義と試飲 ・ブラジルのマテ茶とシマホンでの入れ方の 講義と試飲 ・ベトナムコーヒーについての講義と試飲	林 美晴 酒向 みちこ ルオン ティオ ン イエン ジョアオン アマリウ ド レメスダシルバ	中村 裕

(7) 参加者の募集方法
チラシ



盆踊りの練習



和服体験と
ポストカード作り

ポスター掲示(フレビア内、市役所内)、多言語情報誌、FaceBook、
メールマガジン、ホームページ、日本語教室にて告知

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)



8月3日 盆踊り練習の様子



大森台自治会の夏祭り



日本のお茶について講義



和服の着付け体験

(9) 取組の目標の達成状況・成果

大森台自治会の盆踊りは、3年目を迎え自治会加入の2軒の家族とその関係者を中心に盆踊り参加モデル地域として取り組んできたこの取り組みも目的は達成された。他の自治会や可児夏祭りにも積極的に参加できるように、さらに練習を重ねた。和服の着付け体験は、日本人も着る機会の減った和服、訪問着や振り袖などを体験した。ボランティアで、フィリピンの方が髪の毛を簡単にセットしてくれて、和と洋のコラボができた。和服をきたところをすぐにはがき印刷し、ポストカードにした。当日参加した男性学習者は、年賀状の書き方を学んだ。盆踊りや浴衣の着付け、和服の着付けは地域の方を講師としてお迎えした。外国人への伝え方や教え方には配慮の必要性があることを理解していただけた。今まで接点のなかった地域の外国人との交流の場になった。世界のお茶会は、日程調整が難しく単独での実施ができなかったため、見本市の中での公開講義と試飲会とした。日本茶、中国茶、ブラジルのマテ茶、ベトナムコーヒーについての講義とデモンストレーションを実施した。日本茶についての講師は、お茶農園の後継者で自身もブラジル研修の体験があり、日本との栽培法の違いや味の違いについて実際に試飲しながら聞いた。ブラジルマテ茶の入れ方の講義もあり、交流ができた。ブラジルマテ茶は、ブラジルの中でも南の地方の文化で、日本において家庭でこのマテ茶をクヤで入れるシマホンを伝承している家庭があり、ブラジルの人たちからも珍しがられた。来場者は、興味深くいろいろ質問をし、日本語での発話のいい機会となった。

(10) 改善点について

既存の日本語教室との連携がなかなか取れなかった。同じ時間を実施したり、指導を補助してもらったが、自分たちも一緒に活動しているという意識付けまでは出来なかった。ミーティングにおいても、突然イベントだと言われて戸惑うという意見さえ聞かれた。事務局のコーディネーターと教室のコーディネーターがうまくかみ合わず、コミュニケーションが取れなくなってしまった。自分たちの教室を阻害されるというような逆の意識になってしまった。改善点としては、来年度事業は、日本語教育全体を一緒に考えていく体制にすることで、可児市の日本語教育の在り方を共有し、体制づくりに協力してもらえるよう、指導者の養成もしっかりと行っていきたい。

○取組5: 演劇ワークショップで伝える防災

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・可児市の防災訓練との連携 および 訓練の定着
- ・人材育成として、多文化演劇ユニットMICHIOのワークショップバリエーションとバージョンアップを目指す
- ・近隣地域の国際交流協会と連携することで、災害時の連携に備える

(2) 取組内容

- ・防災ワークショップを通じて、防災意識を高めながら、緊急時に必要な情報伝達と日本語の習得
- ・防災ワークショップの開催 全6回

(3) 対象者

- ・日本語教室に通う外国人、外国人保護者、近隣地域在住の外国人など
- ・災害時に外国人の支援者となる日本人

(4) 参加者の総数 105人

出身・国籍別内訳

中国	0人	インドネシア	7人	
韓国	0人	タイ	人	インド 1人
ブラジル	60人	ペルー	5人	アメリカ 1人
ベトナム	3人	フィリピン	3人	フランス 2人
ネパール	2人	日本	21人	

(5) 開催時間数(回数) 10時間 (全5回)

(6) 取組の具体的内容

〔ワークショップ 及び まちあるき〕

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 11月21日 9:30~11:30	2h	美濃加茂市 ブラジル人学校: イザキニュートン校	39人	ブラジル (39)	防災	・災害発生時の行動をイス取りゲームをしながら学び、同時に災害発生時に聞こえてくる音を確認した。 ・避難所に行く時、家にあるものから何を持っていけばいいか、日用品が描かれているアイテムカードを選び、必要なもの考えた。	山田 久子 住吉エリオ洋一 河野 悟	田室 寿見子 近藤 利恵
2	平成27年 1月11日 13:30~ 15:30	2h	可児市多文化 共生センター フレビア・ 広見公民館	10人	ブラジル (3) フィリピン (1) ベトナム(1) 日本(5)	防災 まちあるき	・スタートからゴールまでを事前に作成したルートに沿って、8つのチェックポイントを探しながら歩いた。 ・チェックポイントについてどんな危険があるのか、もしくはどんな時に安全で役に立つ場所なのか解説した。 ・避難所がどんな場所なのか見学した。	山田 久子 中 美保子 河野 悟	村知 収 田室 寿見子 各務 真弓
3	平成27年 1月31日 14:00~ 16:00	2h	美濃加茂市 東図書館	23人	ブラジル (13) ペルー(5) 日本(5)	防災	・災害発生時の行動をイス取りゲームをしながら学び、同時に災害発生時に聞こえてくる音を確認した。 ・避難所に行く時、家にあるものから何を持っていけばいいか、日用品が描かれているアイテムカードを選び、必要なもの考えた。 ・「避難」という文字を見てわかるように覚え方を考えた。	山田 久子 住吉エリオ洋一 河野 悟	田室 寿見子 フリック ヴァルトワ 各務 真弓
4	平成27年 2月15日 13:00~ 15:00	2h	可児市多文化 共生センター フレビア	20人	インドネシア(5) ブラジル (3) ネパール (2) フィリピン (2) ベトナム(1) インド(1) 日本(6)	防災	・災害発生時の行動をイス取りゲームをしながら学び、同時に災害発生時に聞こえてくる音を確認した。 ・避難所に行く時、家にあるものから何を持っていけばいいか、日用品が描かれているアイテムカードを選び、必要なもの考えた。	山田 久子 住吉エリオ洋一 中 美保子 早野 莉央	各務 真弓
5	平成27年 2月22日 14:00~ 16:00	2h	土岐市文化プラザ 練習室	13人	インドネシア(2) ブラジル (2) フランス(2) ベトナム(1) アメリカ(1) 日本(6)	防災	・災害発生時の行動をイス取りゲームをしながら学び、同時に災害発生時に聞こえてくる音を確認した。 ・避難所に行く時、家にあるものから何を持っていけばいいか、日用品が描かれているアイテムカードを選び、必要なもの考えた。	山田 久子 住吉エリオ洋一 早野 莉央	各務 真弓

〔検討会議〕

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	参加者氏名	講師・補助者氏名
----	------	-----	----	------	--------	--------	----	-------	----------

1	平成26年 11月15日 8:00～9:30	1.5h	可児市	2人	ブラジル (1) 日本(1)	防災	・美濃加茂市のブラジル人学校 イザキ・ニュートン校向け「防災 ワークショップ」を開催するにあたって、 スケジュールや参加者の確認、 プログラムの内容を決定した。	山田 久子 住吉エリオ洋 —	—
2	平成26年 12月5日 10:00～ 12:00	2h	可児市	2人	ブラジル (1) 日本(1)	防災	・美濃加茂市のブラジル人学校 イザキ・ニュートン校向け 「防災ワークショップ」のアンケート について、翻訳作業を行った。	山田 久子	ヒグトヴァネッサ
3	平成26年 12月19日 13:00～ 16:00	3h	可児市	3人	ブラジル (1) 日本(2)	防災 まちあるき	・防災の会の村知さん、外国人サポーターのヒ グトさんと「防災まちあるき」のルートを 検討し た。	山田 久子	村知 収 ヒグトヴァネッサ
4	平成27年 1月11日 12:00～ 13:30	1.5h	可児市	5人	日本(5)	防災 まちあるき	・「防災まちあるき」を開催するにあたり、プログ ラムのスケジュール・内容・ ルート・役割など確認した。	山田 久子 中 美保子	村知 収 田室 寿見子 河野 悟
5	平成27年 1月11日 15:30～ 18:30	3h	可児市	5人	日本(5)	防災 まちあるき	・「防災まちあるき」の実施後、成果の確認と今 後の課題について確認した。	山田 久子 中 美保子	田室 寿見子 河野 悟 各務 眞弓
6	平成27年 1月26日 14:00～ 16:30	2.5h	東京都	3人	フランス(1) 日本(2)	防災	・スイートマザーズ向け「防災ワークショップ」を開 催するにあたり、要望があった事項に ついて新プログラムを検討した。	山田 久子	田室 寿見子 フィリップヴァルドワ
7	平成27年 1月30日 14:00～ 17:00	3h	可児市	4人	フランス(1) 日本(3)	防災	・スイートマザーズ向け「防災ワークショップ」を開 催するにあたって、全体のプログラムを 検討 した。	山田 久子	田室 寿見子 河野 悟 フィリップヴァルドワ
8	平成27年 1月31日 12:30～ 14:00	1.5h	美濃加茂市	5人	ブラジル (1) フランス(1) 日本(3)	防災	・スイートマザーズ向け「防災ワークショップ」を 開催するにあたって、参加者の確認、 プログ ラムと小道具の確認をした。	山田 久子 住吉エリオ洋 —	田室 寿見子 河野 悟 フィリップヴァルドワ
9	平成27年 1月31日 16:00～ 17:30	1.5h	可児市	5人	ブラジル (1) フランス(1) 日本(3)	防災	・スイートマザーズ向け「防災ワークショップ」の 実施後、成果の確認と今後の課題を確認した。	山田 久子 住吉エリオ洋 —	田室 寿見子 河野 悟 フィリップヴァルドワ
10	平成27年 2月14日 16:00～ 18:00	2h	可児市	2人	ブラジル (1) 日本(1)	防災	・避難所体験向け「防災ワークショップ」を 開 催するにあたって、参加者とプログラムの 確 認をした。	山田 久子 住吉エリオ洋 —	—
11	平成27年 2月15日 10:30～ 12:00	1.5h	可児市	3人	日本(3)	防災	・避難所体験向け「防災ワークショップ」を 開 催するにあたって、プログラムと小道具、 役割 の確認をした。	山田 久子 中 美保子 早野 莉央	—
12	平成27年 2月15日 15:00～ 16:30	1.5h	可児市	4人	ブラジル (1) 日本(3)	防災	・避難所体験向け「防災ワークショップ」の実施 後、成果の確認と今後の課題を確認した。	山田 久子 住吉エリオ洋 — 中 美保子	—
13	平成27年 2月22日 12:30～ 14:00	1.5h	土岐市	3人	ブラジル (1) 日本(2)	防災	・土岐市日本語教室向け「防災ワークショップ」 を開催するにあたって、参加者とプログラムと 小道具、役割の確認をした。	山田 久子 住吉エリオ洋 — 早野 莉央	—
14	平成27年 2月22日 16:00～ 17:30	1.5h	土岐市	3人	ブラジル (1) 日本(2)	防災	・土岐市日本語教室向け「防災ワークショップ」 の実施後、成果の確認と今後の課題を確認し た。	山田 久子 住吉エリオ洋 — 早野 莉央	—

(7) 参加者の募集方法

第2回「防災まちあるき」のみチラシにて参加者を募集。
日本語教室の生徒やフレミア訪問者、外国人住民の多い地域の自治会会長などに呼びかけ

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

【防災まちあるき】

外国人の防災意識の向上と、災害時に支援者となる日本人のためのワークショップとして企画・実施した。
防災に関連するモノや場所をチェックポイントに設定、外国人と日本人がひとつのチームになってチェックポイントを探しながら歩いた。チェックポイントは日本人でも日頃見落としがちな消火栓の標識やマンホール、ふたのない側溝など8つを選定した。それらを改めて確認することで参加者全員の防災意識の向上を図った。さらにチーム内の会話も活発に行われており、日本語の習得にもつながった。支援者にとっては、外国人の目線で街や防災施設を見ることで理解を深める機会となった。

【防災ワークショップ】

イス取りゲームの要領で、会場中にバラバラに置いたイスを渡り歩きながら、ファシリテーターの「地震」の合図でイスの下に頭を隠すなど、災害時にどう行動すればいいのか学んだ。さらに「緊急地震速報」の音など災害時に流れる音についても確認をした。
最初はぎこちない動きの参加者も繰り返し行うことで動きが素早くスムーズに行えるようになる。
避難所シミュレーションゲームでは、グループで避難所にもっていくべきものを考えた。ワークショップで行ったことを家に帰った後家族で話し合ってもらおうと「日用品リスト」を配布し、自分の家族に必要なものは何なのか考えてみてくださいと話した。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

- ・2012年よりフレミアの日本語教室で毎年1回防災ワークショップを実施、訓練の定着が出来たと考える。
- ・今年度新しい防災ワークショップとして「防災まちあるき」を企画・実施した。効果を確認できたが、課題も見えてきたので来年度も継続してプログラムの検討を続けていく。さらに可児市の防災訓練との連携も検討していく。
- ・今年度は、土岐市国際交流協会、美濃加茂市のブラジル人学校やママサークル、さらに可児市防災の会など新たな団体との連携ができた。
- ・参加者のアンケート全体から「地震の時にどうすればいいかわかった」「避難所に何をもっていかかわかった」など防災意識が向上したとみられる感想が多くあった。日本語教室の生徒からはそれ以外に「たのしく勉強できた」「緊急地震速報という言葉が初めて聞いた」「防災の言葉をたくさん聞いた」など日本語習得に繋がる感想もあった。さらに日本人からは「外国人との防災の意識の違いがわかった」「漢字でしか書いていない看板・標識は外国人には難しいですね」など一緒にワークショップを体験することで気づいた感想もあった。
- ・取組実績や参加者からの感想から取組目標については概ね達成できたと考える。

(10) 改善点について

- ・可児市の防災訓練との連携について、どの程度連携していくか検討が必要。「防災まちあるき」については、自治会との連携が出来よう働きかけていく。
- ・ワークショッププログラムのバージョンアップとして、今まで口頭でのみ説明していた防災の用語(防災、避難所、地震など)を漢字やひらがなで見えるように小道具を準備していく。今年度アンケートで「今日初めて聞いた(知った)言葉を教えてください」と聞いたところ、「防災」や「洪水」などを挙げていた参加者が多かったのだが、書き間違えていることも多かった。文字で見えて確認することで記憶の定着にもつなげていく。



イス取りゲーム



避難所シュミレーションゲーム



避難所シュミレーションゲーム



まちあるき1



まちあるき2



まちあるき3



避難所体験(見学)

○取組6:日本語見本市

- (1) 体制整備に向けた取組の目標
行政、地域の企業、地域住民、日本語関係者、日本語学習に関心を持っていただけるような取組の発表の場とする。取組による効果、成果を広く周知させる。
- (2) 取組内容
県内、他県、他市などの日本語教室が一堂に会して、日本語教室の取組や活動の紹介を各ブースにて行う。
本事業の取組の事例報告 及び 当協会・近隣の日本語教室の活動発表も行い、各ブースでは、ポスターセッションをはじめ、日本語教室の模擬体験や本事業で取り組んだ内容の縮小版を再現する。
- (3) 対象者
本事業に関わった外国人 及び 日本人
地域住民、地域の企業、日本語関係者
- (4) 参加者の総数 250人 出展者:当協会関係者・本事業関係者 42人
出展者:県内・県外の教室・団体 29人
会場来場者:179人

出身・国籍別内訳

中国	3人	インドネシア	5人	ミャンマー 2人
韓国	2人	タイ	人	
ブラジル	56人	ペルー	3人	
ベトナム	6人	フィリピン	44人	
ネパール	人	日本	129人	

- (5) 開催時間数(回数) 5時間 (全 1回)

(6) 取組の具体的内容

〔全体〕

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成27年 2月8日(日) 10:00～ 15:00	5h	可児市多文化 共生センター フレビア	250人	日本(129) ブラジル (55) フィリピン (44) ベトナム(6) インドネシ ア(5) ペルー(3) 中国(3) 韓国(2)	日本語見本 市	本事業の取組 及び 当協会の日本語教室 近隣の日本語教室のブース展示を行う。 各ブースでは、ポスターセッションや 日本語教室の模擬授業、本事業での 内容を縮小版で再現する。 また、教室・団体を4グループに分け、 時間を設けて、事例報告、活動発表を行う。	各務 眞弓 土本 典子 羽田野 寛享	各務 眞弓 吉田 よしえ ダニー キミコ 馬木 照子 肥田 征憲 福田 静夫 永田 俊司 近藤 利恵

〔事例報告〕

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成27年 2月8日(日) 10:30～ 11:15	45分	可児市多文化 共生センター フレビア	7人	ブラジル (1) フィリピン (2) 中国(1)	事例報告	取組1:職場体験学習 何のために体験学習をしたのか。 どこに何を、どうだったか。 良かったところ、悪かったところを 一人一人学習者が発表。	<報告者> オテロルカス ガフヤレイセル 馬場アンジェレ ト ウゾンエイ	-
2				3人	日本(1)		取組2:生活と職場に必要な日本語 アンケート調査結果、実施内容、 成果と課題、中上級者の日本語教室 として、本事業の取組がどうだったか を発表。	<報告者> 田中 安希子	-
3				4人	日本(1)		取組3:子育ての日本語 本事業の取組の実施内容、 成果と課題、集客の工夫などを 発表。	<報告者> 池辺 恭子	-
4				6人	日本(1)		取組4:文化体験型日本語 本事業の取組の実施内容、 成果と課題を発表。 本日の世界のお茶会の説明。	<報告者> 各務 眞弓	-
5				2人	日本(1)		取組5:演劇手法で伝える 防災ワークショップ 本事業の取組の実施内容、 成果と課題を発表。	<報告者> 山田 久子	-

(7) 参加者の募集方法

〔出展者募集〕

チラシ



当協会ホームページ、メルマガ、岐阜県国際交流センターからの案内

〔開催案内〕

チラシ



日本語



ポルトガル語



英語

当協会のホームページ、メルマガ、多言語情報誌

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

〔参加教室・団体〕

《Aグループ》

可児市国際交流協会:文化庁委託事業「生活者としての外国人」

- 取組1 : 多文化人材育成推進委員会 職場体験学習
- 取組2 : 上級者の日本語
- 取組3 : 子育ての日本語
- 取組4 : 文化体験型日本語
- 取組5 : 演劇手法で伝える防災ワークショップ

《Bグループ》

可児市国際交流協会

- 高校進学支援 ... さつき・かがやき教室
- 小中学校就学支援 ... ゆめ教室
- 就学前事前準備指導 ... おひさま・ひよこ教室
- 小中学校に通う補習支援 ... きぼう教室
- 土曜日の日本語教室
- 日曜日の日本語教室
- 子どもの語学教室 ... サシペレレ

《Cグループ》

- [岐阜市]日本語ボランティア鮎の会
- [高山市]飛騨高山国際協会
- [大垣市]市民協働支援機構

《Dグループ》

- [可児市]可児市教育委員会 日本語初期指導 ばら教室KANI
- [可児市]可児ミッション
- [美濃加茂市]美濃加茂市教育委員会 初期適応指導 のぞみ教室
- [美濃加茂市]美濃加茂国際交流協会
- [岐阜市]岐阜市国際交流協会
- [岐阜市]ホツマインターナショナルスクール
- [恵那市]恵那市国際交流協会
- [大垣市]大垣市まちづくり推進課 プレスクール
- [土岐市]土岐市国際交流協会
- [犬山市]シェイクハンズ
- [小牧市]にわたりの会
- [名古屋市]東海日本語ネットワーク

□ [名古屋市]多文化共生リソースセンター東海

計 28教室・団体

《Aグループ》 10:30～11:15 事例報告
《Bグループ》 11:30～11:45 活動発表
《Cグループ》 12:00～13:00 事例報告
《Dグループ》 13:30～13:45 活動発表

日本語教育関係 取扱い書店『凡人社』の出店
日本語見本市は終日行うことと、会場(フレビア)の近隣には、飲食店がないため、
ケータリングカーを数台呼んだり、軽食販売を行い、昼食に備えた。



開会 挨拶



取組1:事例報告



取組2:事例報告



取組3:事例報告



取組4:事例報告



取組5:事例報告



職場体験学習 再現



世界のお茶会
茶葉・茶器



ブラジル シマホン



フィリピン・ブラジル 料理&スイーツ (昼食・軽食)



凡人社





各ブース 質疑応答 の様子



会場の様子



各教室・各団体 ブース展示



各教室・各団体 ブース展示



各教室・各団体 ブース展示

出展者の皆様

(9) 取組の目標の達成状況・成果

従来、本事業の取組成果の報告は、全取組の最後にシンポジウムという形をとっていた。1年目は、本事業の取組事例報告とパネルディスカッションで、来場者は、ただ報告者とパネラーの話を聴くという一方的なもの、2年目は、来場者と意見交換ができる形に改善し、事例報告と参加型円卓会議というものにし、会場のレイアウトも来場者がパネラーを囲み、会場の全員が会議に参加しているようなスタイルに工夫をした。

私たちは、様々な日本語教室を実施しており、各々の教室には、目的や目標があるが、各教室の横のつながり、さらには、全体として何を目指していくのかということをつまていなかったことに、2年(2回)のシンポジウムを通して、分かった。

また、シンポジウムの来場者の中に、日本語教室に関わっている指導者やサポーターが非常に少なく、関心のなさが伺えた。

自分が関わっている教室以外に、どんな教室があるのか、そこではどんな成果や課題があるのかを知ってもらうことで、自分の教室を振り返り、全体として、何を目指していくのかという意識を持ってもらうために、日本語見本市というスタイルを取った。

当協会の教室だけではなく、近隣の日本語教室にもご参加いただき、様々な分野の取組を知ることが出来た。

〔参加者アンケート〕（抜粋）

- ・各ブースがどのような活動をしているかが、よく分かって有意義な時間になりました。
- ・多くの方々が参加し、同じ課題を共有したり、解決案をいただいたり、とても参考になった。
- ・いろいろな日本語教室の運営状況が分かり参考になった。それぞれの教室によって、目標（資格取得、日常会話）などが異なり、学習者の要望と主催側の意向を合致させる教室運営が大事だと思った。
- ・各地で活躍されている団体が集まるとすごいパワーですね。こういう機会にさらにネットワークが広がるといいですね。
- ・活動グループの存在や活動内容が一望出来て良かったです。
- ・大変良かった。いろいろな地域の日本語教室の教材や指導について知ることが出来た。凡人社の本を実際、手に取って見て、割引価格で購入することが出来た。他市の日本語教室に関わる人たちと出会うことが出来た。
- ・この辺りの地域、日本語支援の様子が分かり、大変興味深かった。
- ・刺激をたくさんもらいました。勉強にもなったし、とても楽しく過ごせました。ロビーでのエスニック料理や本の販売もとても良かったです。是非、定期的に開催していただきたいです。
- ・直接、日本語指導をしている訳ではないため、指導法については特に何も感じなかったが県内各地の現状について知ることが出来たという点で大変有意義であった。貴重な機会を与えていただき、ありがとうございます。参加して良かったです。
- ・県内外のいろいろな団体の活動を共有することが出来ました。「顔」と「顔」が見える交流、とても大事です。
- ・県内にこれだけ素晴らしい取組があるとは、知りませんでした。地域で生活する外国人の日本語教育について学ぶいい機会となりました。
- ・本当によいイベントでした。これからも続けていただきたいです。
- ・この地域の小中学校で日本語教室・国際教室を担当している先生方に是非、参加してほしい。来年度以降も開催していつてもらえるとよい。市の担当者、NPO団体、教育機関がネットワークを取り合う一つの場になっていくと思う。
- ・各国の食べ物を食べる機会なんて初めてだったので、いろいろ質問しながらたくさん買って食べてしまいました。おいしかったです。今日、ブースを見学して、新たな発見もいくつかあったので、今後授業で活かしていけたらいいなと考えております。



2015年2月15日 中日新聞

(10) 改善点について

28教室・団体もの応募協力があり、会場が狭くなってしまった。発表の仕方をどうするか運営委員会で議論を重ねたが、全ての教室・団体を発表させるのには、無理があった。文化庁事業の事例報告では、他の発表より時間を多く取らせていただき、マイクも使ったので、聞き取りやすかったと思うが、45分間立ったままだったので、着席したかったなどの意見も出た。

各教室の活動発表は、他イベント、他報告会を参考にした方法で、各ブースの発表者が一斉に発表するものだった。マイクの本数に限りがあったため、使用できず、お隣のブース発表の音が混じったりして、聞き取りにくく、参加者からの不満の音が挙がってしまった。来年度も日本語見本市を開催したいが、発表の仕方を考え直さなければならない。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

居住年数が長くなってきている外国人が、地域で安定した職業に就き、余暇を楽しむなど地域で文化的な生活を送ることが「生活者としての外国人」と捉え、学習者のみならず、指導者側も取組を通して、共生するための気付きや工夫など人材育成という観点から成長を期待する。

(2) 事業目的の達成状況

事前に学習者にニーズアンケートをとって、ニーズに応えた教室作りをしたり、昨年度の反省が活かされた取組となった。どの取組においても、共通して懸念されることは、集客。今年度は学習者の出席が定常化できる工夫が見られた。

全体の取組の中で特に大きく動いたことは、取組1：職場体験学習であった。体験先の地域のお店は、この事業・取組の主旨や目的を理解してもらいつつ、受け入れを許諾して下さった。初めて地域に住む外国人と関わりを持つのにもかかわらず、日本語が通じないから、通常業務に差し障りがある、など躊躇や断わりは一切なく、むしろ自分たちも多文化共生について理解していかなければならないという姿勢だった。

取組3：子育ての日本語においても、本事業取組の1年目：病院の講義なら、医師をお呼びし、保育園の講義なら園長をお呼びするなど、高度な専門講師をお招きしたのに、受講者が少なく終わった。2年目：集客率が高い料理教室を行った。しかし、本来の狙いは外国人が地域で生活するために・子育てをしていくために、様々な子育て支援者や関係を作り、日本語を覚えることだった。そのようなことから、今年度、それらを合わせた取組を実現させた。お料理教室に子育て支援者をお呼びし、一緒にクッキングをしたのだ。学習者は、お料理を覚えたことはもちろん、日頃聞けないことが専門家に聞いたことで満足され、子育て支援者も直接外国人がどんな悩みを抱えているのか、通訳がいなくても頑張って日本語で伝えあえることを分かっていたと、とても充実した取組となった。少しずつではあるが、日本語教室以外の団体や外部の方に取組を通して、外国人が生活していくために、どう接してあげればいいのかという考え方が生まれたのではないと思われる。

(3) 地域における事業の効果、成果

当協会では、子ども向けの日本語教室、成人向けの日本語教室、様々に対応している。その教室には、各々の目的や目標があるが、「生活者として外国人をどう日本語教育をしていくのか」という要素が抜けている。教室の中だけで会話が出来ても仕方がない、テキストの本文だけが読めても書いても仕方がないということ、地域の日本語教室として本事業の取組を織り交ぜて実施していけばいいのだが、それを指導者に理解させるのが、難しかった。シンポジウムにも関心がなく、これでは、どのように取組の意図を周知させていけばいいのかを考えていくうちに、本事業の取組として、日本語見本市という発信の仕方を考えた。他団体の教室・取組が、どのようになされているのか刺激を受け、自分たちの教室や団体を振り返ることが出来るのではないかと。指導者たちは、成果や課題の情報交換をするために、まず、ブース展示の準備段階として、教室の性質、主旨を考え、理解しようとしていた。私たちにとって、それは、大きな一歩であった。各取組で学んだ学習者や取組に関わった外国人が日本語見本市で活躍したことも成果であり、参加者には、多くの外国人もいた。そして、このようなイベントを定例化してほしいとの声も多数寄せられた。関心の高さが伺える。日本語関係者だけでなく、行政や学校関係者、地域の方々が多く、来場して下さり、取組を知ってもらえたことは、過年のシンポジウムを開催するよりも大きな反響があったと思われる。

(4) 改善点, 今後の課題について

i 現状

この地域にはない、中上級者向け日本語教室を開催し、受講しても、どこで役立つのか明確ではない。「生活者としての外国人」に対して、このレベルの人たちは「生活」出来ている。向上心を持たせる何かが必要。

ii 今後の課題

日本語教室において、安定した受講率を保つために、学習者にとって魅力的な仕組み作りをしなければならない。日本語教室の内容は、その時間だけの習得に留まらないこと。取組全体の中で、学習者が日本語教育を受けられるような連携を取り、教室と他教室とのつながりを考えて、相乗効果が図れるような体制をとる必要がある。

iii 今後の活動予定

学習者には、どのぐらいの日本語が話せるのか、理解出来ているのか、どのぐらい自分の力が社会で有効か、チャレンジできるのかを「認定証」によって、明示できる仕組みを構築する。各取組において、それぞれ「認定証」の基準作成を目指して、学習者が取得しやすい学習指導方法を検証しながら、実施していく。「認定証」は、地域で認知度を上げ、有効活用できる価値のあるものとしなければならない。

(5) その他参考資料

別紙